緑の地球ネットワーク　イベント記録
（2024 年度）

2025 年	
3 月 29 日	GEN 自然と親しむ会　前中代表と歩く野の道シリーズ(19) 春風馬堤曲の舞台、淀川毛馬地区を歩く
3 月 26 日	GEN なんでも勉強会オンライン スギとヒノキ -ありふれた樹の持つ特別な歴史-
2 月 25 日	GEN なんでも勉強会オンライン 森の未来を左右するフォレスターという仕事
1 月 29 日	GEN なんでも勉強会オンライン　乾燥地での森林の造成と管理
1 月 25 日	GEN 自然と親しむ会　大阪城公園でバードウォッチング
2024 年	
12 月 19 日	GEN なんでも勉強会オンライン 神々と共に生きる人々の暮らし人々の暮らし -伝統と近代化の植物利用-
11 月 22 日	GEN なんでも勉強会オンライン　エネルギーと気候変動問題の最新事情
11 月 2 日	GEN 自然と親しむ会　秋のきのこを見に行こう
10 月 26～27 日	GEN 自然と親しむ会　南大阪にふたつの森を訪ねる
10 月 21 日	GEN なんでも勉強会オンライン　梼原 令和の森林づくり
9 月 26 日	GEN なんでも勉強会オンライン　日本の森林は荒廃しているのか？
8 月 29 日	GEN なんでも勉強会オンライン 日本の近代化と狩猟の歩み 乱獲と獣害の歴史から
7 月 30 日	GEN なんでも勉強会オンライン 大阪・夢洲は生物多様性のホットスポット　夢洲の生きもの保全から大阪湾の生きもの保全・復元への流れを作っていこう
6 月 15 日	GEN 第 30 回記念講演　グローバル・ヒストリーのなかの黄土高原 大同・蔚県・五台山から世界を眺める
5 月 29 日	GEN 顧問 遠田宏先生を偲ぶ会
5 月 23 日	GEN なんでも勉強会オンライン 森づくりってなんだ？ スイスの森林管理から考える
4 月 25 日	GEN なんでも勉強会オンライン　中尾式栽培植物ルーツ探し術
4 月 13 日	GEN 自然と親しむ会　前中代表と歩く野の道シリーズ(18) 春の大仙公園を歩く

GEN 自然と親しむ会　前中代表と歩く野の道シリーズ(19)
春風馬堤曲の舞台、淀川毛馬地区を歩く

～ 開 催 要 項 ～

江戸時代の俳人・画家の与謝蕪村の生誕地、大阪市都島区毛馬（けま）を歩きます。ここは与謝蕪村が淀川への望郷を詠った「春風馬堤曲」の舞台であり、毛馬閘門近くの堤防には句碑が建てられています。春の淀川河川敷を歩きながら自然観察を楽しみませんか。

日時	2025 年 3 月 29 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	大阪市都島区毛馬地区
集合／解散	10 時に大阪シティバス「城北公園前」集合、解散は同「毛馬橋」バス停
案内	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	GEN 会員 300 円、一般 800 円（保険料を含む）
定員	20 名（先着順）

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	17 名

距離は短いけれど見どころたくさんの楽しいコースでした。まずは城北公園のタムシバ（写真①）。コブシと似ていますが、コブシは花の下に葉がつくのに対し、タムシバは葉がありません。街中でみなさんがコブシだと思っている街路樹は、タムシバかもしれません。

淀川に出ると堤防とワンド（写真②）。堤防の構造や、ワンドの説明をうかがいます。ワンドの人工的な構造は、川に垂直に突き出した「水制」（写真③）で、その先端部分に堆積した土砂がつながって堀のようになり、流れが緩やかで魚や水棲生物、鳥など多様な生き物が暮らしています（写真④）。中州のようになった部分は歩いて通れるところもあります（写真⑤）。

毛馬の閘門（写真⑥）。閘門は水位が異なる河川や水路で船を上下させる装置で、ちょうど船が通過するところを見ることができました。明治時代に作られた古い閘門（写真⑦）も保存されていました。

さて、今回の自然と親しむ会のタイトル、春風馬堤曲の作者、与謝蕪村は毛馬の生まれだそうです。毛馬の堤防にも句碑（写真⑧）があります。ゴールはその蕪村を記念した蕪村公園。桜が咲きはじめた春の一日、ゆったりと楽しいハイキングでした。

GEN なんでも勉強会オンライン
スギとヒノキ -ありふれた樹の持つ特別な歴史-

～ 開 催 要 項 ～

スギやヒノキは、花粉症が増加したこと、多様な森林への指向が高まったことから、社会から疎まれるような雰囲気さえ生まれています。確かにスギやヒノキの人工林がこれほど必要なのかということには検討の余地はありますが、本来こんなに悪者にされるような存在なのでしょうか？　そもそもスギやヒノキは何者なのか、日本列島の自然や文化にどのように関わってきたのか。その歴史をひもとき、日本列島の自然や文化を支える存在になった流れを紹介します。

日時	2025 年 3 月 26 日（水）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	大住克博さん（大阪市立自然史博物館外来研究員）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	30 名

まず、スギ・ヒノキが属するヒノキ科の歴史から始まりました。南北両半球、オーストラリアにも分布することから、パンゲアの分裂（約 1.6 億年）前から存在していたと考えられます。その後、地球の寒冷化などで針葉樹群は中緯度地帯に押し込まれ、それが現在に残ったものが温帯性針葉樹林、高緯度地帯に再進出したものが北方針葉樹林となります。つまり、温帯性針葉樹である日本のスギ・ヒノキは古いルーツを持っているのです。

季節風や地形の条件で、中緯度地域では例外的に湿潤な東アジアには熱帯・亜熱帯山地から亜寒帯まで連続する森林植生が保存されました。日本が属する日華区系には多くの遺存種があります。それらの中から、弥生時代中期以降、針葉樹の利用が増えてきます。なかでもヒノキは、強度や芳香などのすぐれた材質や加工のしやすさなどから宮殿や寺社の建築に重用されてきました。結果としてスギ・ヒノキは減少し、遠方や高山まで伐採の手が及ぶようになります。いよいよ天然資源が枯渇した江戸時代、18 世紀にごく限られた地域で育成林業が始まり、幕末になってそれが全国に広がり始めました。温帯針葉樹林のサイクルは 1000 年近く、成熟林の段階まで 150 年程度。日本の育成林業は、まだ成長途上にあるのです。

GEN なんでも勉強会オンライン
森の未来を左右するフォレスターという仕事

～ 開 催 要 項 ～

森を守り、育て、活用する専門家、フォレスター。ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルに注目が集まる今、フォレスターの役割はますます重要になっています。フォレスターの仕事について、共に学び、考えてみませんか。

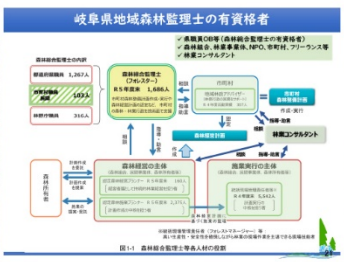
日時	2025 年 2 月 25 日（火）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	中村幹広さん（岐阜県立森林文化アカデミー　森林技術開発・支援センター長）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

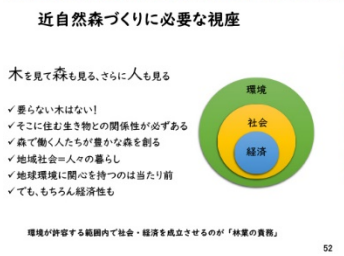
～ 開 催 記 録 ～

参加人数	21 名

昨年 5 月の GEN なんでも勉強会「森づくりってなんだ？」でスイスの森づくりについて学びましたが、そのとき印象に残ったのが「フォレスター」という仕事でした。森を知り、作り、守る専門家が日本にもいればいいのにと思いました。その日本版フォレスター「森林総合監理士」が、あまり知られていないけれどもこんな活動をしていますよ、というのが今回のお話です。

興味深かったのが、フォレスターはコミュニケーションに長けている必要がある、ということでした。森林所有者、施業者、自治体などの利害関係者と意見を調整して望まれる森を作っていく中心になるためです。フォレスターってなんとなく森の隠者、みたいなイメージだったのですがとんでもない。関係者の持つ漠然とした意図をしっかり言語化し、立場や意見の違いを調整してみんなが望む森の形を具現化していくお仕事でした。





GEN なんでも勉強会オンライン
乾燥地での森林の造成と管理

～ 開 催 要 項 ～

乾燥地の森林って？　水が不足してるため貧弱ですが、乾燥地に成立する森林もあります。住民がいれば資源としての木材へのニーズもありますが、適正な利用がなされていません。乾燥地の森林を持続的に利用するにはどうすればいいのか考えます。

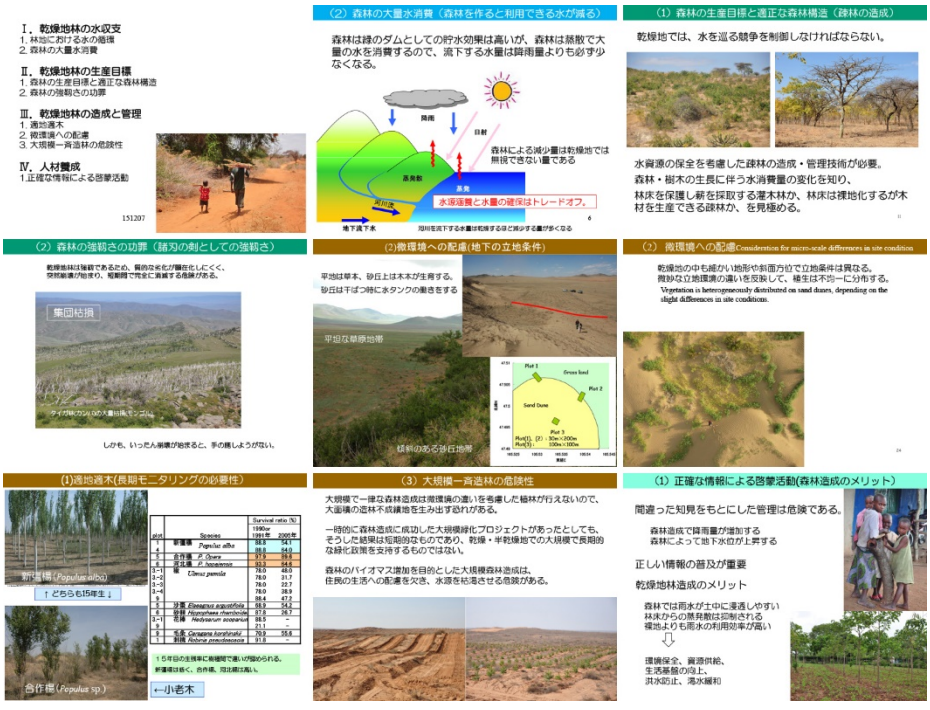
日時	2025 年 1 月 29 日（水）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	吉川賢さん（岡山大学名誉教授）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	24 名

まず、森林は大量の水を必要とする、というところから入りました。日本だと降水量が多いため森林が蒸散しても水は河川や土壌に残りますが、乾燥地ではそもそも降水量が可能蒸発散量よりも少ないのです。そんなところで林業が可能なのでしょうか。

第一に乏しい水を最大限に利用して生きる乾生植物の生態を知ることが必要です。さらに、砂丘やくぼ地などの微地形による条件の違い、植物の成長による水需要の変化などを考慮し、「最初はよく育ったけど結局枯れた」とか「木は育ったけど井戸が涸れた」などということがないように、長期間モニタリングしながら森林を造成することが重要です。そして、そのためには地元住民の理解と協力がかかせません。造林の意義、メリットとデメリットをしっかり説明したうえで造林に関わってもらうことが必要です。



これらは GEN の中国黄土高原での緑化協力にもあてはまります。なかなか理想通りにはいきませんが、わが身を省みながらうかがった有意義なお話でした。

GEN 自然と親しむ会
大阪城公園でバードウォッチング

～ 開 催 要 項 ～

木の葉が落ちる冬は鳥の観察に最適です。今回は意外に鳥たちが集まる都市公園、大阪城公園でバードウォッチングをします。濠にはたくさんのカモ類、林には冬の小鳥、運がよければオオタカが見られるかも？

日時	2025 年 1 月 25 日（土）10 時～14 時 30 分ごろ
場所	大阪城公園（大阪市中央区）
集合／解散	1 月 25 日 10 時大阪メトロ中央線「森ノ宮」駅 3B 口を上がったところ
案内	高田みちよさん（高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）アドバイザー）
参加費	GEN 会員 300 円、一般 800 円（保険料を含む）
定員	20 名（先着順）

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	15 名

天気予報では寒くなるということで心配していましたが、日が当たるとぽかぽかと暖かい日和になりました。森ノ宮から入って外堀の外周をぐるっと回るコースを歩きました。声だけのものも入れると 29 種類の鳥たちに出会うことができました。

今年はカモが少ないと聞きますが、ここでもそうで、鳥影がないがらんとした水面も。講師の高田さんも初めて見る光景だそうです。それでも歩くうちにキンクロハジロやヒドリガモがでてきて、カンムリカイツブリとミコアイサに出会えたのはラッキーでした。

冬鳥は食べ物を求めて南下してくるので、大阪城公園でカモが少ないのは北のほうで餌が豊富に残っているからかもしれないそうです。日本各地で行われているガンカモ調査の速報が 2 月に出るので、それを見れば今冬関西でカモが少ない原因がわかるかもしれません。少ないのはカモだけでなく、小鳥に人気のアキニレの種がたくさん木に残っていたので冬の小鳥も少ないようです。鳥だって余分な移動はしたくない、繁殖地に少しでも近い所に留まりたいのです。それにしてもこんなところにも気候変動の影響が？と心配になってしまいました。

上中)カンムリカイツブリ
上右)コガモ雌雄
中左)オカヨシガモ雄
中中)カワラヒワ
中右)ミコアイサ雄
下左)キンクロハジロ雄
下中)シロハラ
撮影:藤田修二さん

GEN なんでも勉強会オンライン
神々と共に生きる人々の暮らし -伝統と近代化の植物利用-

～ 開 催 要 項 ～

人間の生活に欠かすことができない植物。その関係は生命を支える光合成から衣食住など生活基盤の維持、文化的利用と多岐にわたります。今回はインドネシアのバリ島で日常的に神々に捧げられるチャナンという花籠をとおして伝統的な植物利用が近代化で変遷していくさまを追い、地域景観や環境問題を考えます。

日時	2024 年 12 月 19 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	大野朋子さん（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	34 名

インドネシアではイスラム教が盛んですが、バリ島ではバリ・ヒンドゥーといわれるヒンドゥー教徒が人口のおよそ 9 割を占めます。日々の生活の中に宗教が息づいており、日常的にチャナンと呼ばれる花籠を神々に捧げて祈る習慣があるそうです。ココヤシの若葉で容器をつくり、その中にパンダンの葉と色鮮やかな花を入れて作るこのチャナン、かつては 1 日に 100 個も消費する家があったとか。それを作るのは女性の仕事、どれだけの手間と人手がかかったことでしょう。いまでも 15 個とか、本家だと 50 個というのですから大変です。それでも、この現代に神々に花を捧げるという伝統的な宗教行動が途絶えずに続いているのはとても貴重なことです。チャナンのために若葉を採るものだからバリ島独特の姿を見せるココヤシの木。かつては自宅周辺の花々でまかなっていたのを、栽培されたものを買うようになり、女性たちの負担は減ったものの、水田がホウセンカやマリーゴールドなどチャナン用の花畑になったところもあります。近代化で地域景観の変化、食料生産、ゴミ問題などの可能性が出てきています。

GEN なんでも勉強会オンライン
エネルギーと気候変動問題の最新事情

～ 開 催 要 項 ～

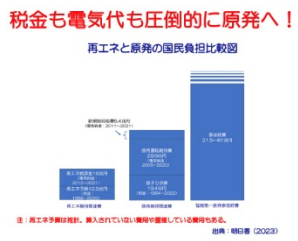
昨年につづき、日本の今年の夏は観測史上最も暑い夏となりました。日本だけでなく世界各地で気象災害は激甚化しています。もはや沸騰といわれる地球温暖化に対し、世界はどのように対処しているのか、今後どのように対処すべきなのか。メディアでも積極的に発信しておられる明日香壽川さんに、最新事情をお話しいただきます。

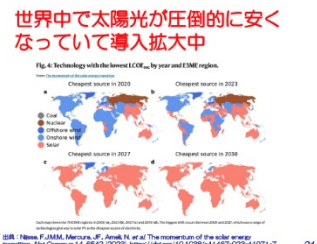
日時	2024 年 11 月 22 日（金）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	明日香壽川さん（東北大学東北アジア研究センター・東北大学大学院環境科学研究科教授）
参加費	無料
定員	100 名

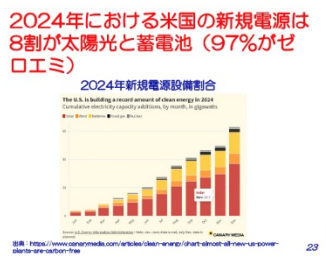
～ 開 催 記 録 ～

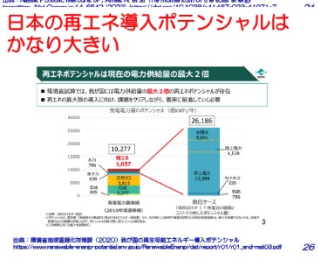
参加人数	47 名

9 月の勉強会「日本の森林は荒廃しているのか？」で、広く一般に事実として認識されていることが必ずしも正しくなく、その認識を改める必要があると学びました。明日香さんのお話もまたその連続でした。まず、衆院選のボートマッチに使われた「気候変動問題に対応するためには生活水準を犠牲にすることも必要だ」という議論。生活水準を下げることなく気候変動問題に対応することは可能だという試算が示されました。また、「温暖化緩和のためには原発の再稼働もやむなし」。さまざまなデータで、原発が温暖化対策としては効率が悪く、コストとリスクが高いことを説明されました。さらに、「日本は再生可能エネルギーのポテンシャルが低い」という点も、最大で現在の電力供給量の 2 倍のポテンシャルがあるという環境省の試算を示されました。こうして知った事実を広げたり投票に反映させたり、再エネ利用の電力会社を利用するなどして少しでも温暖化防止に力を尽くしたいものです。質疑応答も活発で、時間を過ぎてもお付き合いいただいた明日香先生、参加者のみなさま、ありがとうございました。









GEN 自然と親しむ会
秋のきのこを見に行こう

～ 開 催 要 項 ～

毎年恒例、秋のきのこ観察会です。講師の栗栖さんの飄々とした案内を楽しみにしておられる方もおいででしょう。今年は吹田の万博記念公園、平坦で歩きやすく、意外ときのこに出会える場所です。最近は不作気味の年が続いていますが、今年はどうでしょう。

軽いハイキング気分で、秋の万博記念公園の散策を楽しみませんか。初心者大歓迎です。

日時	2024 年 11 月 2 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	万博記念公園（吹田市千里万博公園 1）
講師	栗栖敏浩さん（樹木医、（株）松本微生物研究所）
参加費	700 円（保険料を含む、別途万博記念公園入園料が必要）
集合	10 時に万博記念公園中央口
定員	20 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	雨天のため中止

GEN 自然と親しむ会
南大阪にふたつの森を訪ねる

～ 開 催 要 項 ～

和泉葛城山のブナ林は日本では南に位置し、比較的低い標高にある珍しいブナ林として 101 年前、国の天然記念物に指定されました。調査と保全に協力している前中代表に案内してもらいます。

浜寺公園も歴史が古く、151 年前の開園。白砂青松のマツ林は百人一首にも詠まれています。消滅の危機を乗り越えて人々の憩いの場となっている公園の歴史をふまえて見どころを見学します。

日時	2024 年 10 月 26 日（土）10 時～27 日（日）11 時ごろ
場所	和泉葛城山、浜寺公園（大阪国際ユースホステル泊）
集合／解散	10 月 26 日 10 時 JR「東岸和田」駅改札口／27 日 11 時ごろ浜寺公園
案内	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	12,000 円（26 日レンタカー、夕食、宿泊、27 日朝食、保険料を含む）
定員	12 名（先着順）

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	13 名+4 名

国の天然記念物に指定されてから 100 年が経つ和泉葛城山のブナ林。100 年の記念植樹で植えられたブナの苗木は、1993 年、種子の大豊作の年に集められた種から育てられたものだそうです。開発や温暖化といった逆境のなか、保全のための努力が続けられています。樹木の調査や、バッファゾーンでの育苗などが行われていると聞いていましたが、現場は足がすくむような急斜面で苦労がしのばれました。移動の車中小雨にあいましたが、展望台で色づき始めた木々と雲海を望むことができたのはラッキーでした。

浜寺公園では、園内で一番大きなマツや、2 本しかないというアカマツ、米軍接収時の謎の置き土産、伐採の危機を救った（？）大久保利通の歌碑など、歴史を感じさせるポイントを見学。前夜にセミナーを受けていたので、理解を深めることができました。

GEN なんでも勉強会オンライン
椎原　令和の森林づくり

～ 開 催 要 項 ～

高知県にある椎原町は、面積の 9 割を森林が占める林業の町です。椎原町の森林組合は日本の団体として初めて FSC 認証を取得し、適切な森林管理をおこなっています。また町役場や図書館などに椎原産の木材を積極的に利用しています。そのほかさまざまな取り組みについて、立道斉さんにお話しいただきます。

日時	2024 年 10 月 21 日（月）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	立道斉さん（ゆすはら雲の上観光協会事業統括部長）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	35 名

前回のなんでも勉強会では、日本の人工林全般について現状を学びましたが、今回は高知県椎原町という具体的な事例を学びました。町の面積の 9 割が森林という椎原町では、森林（もり）を中心とした町づくりに取り組んでいます。木材を生産する林業、木材を利用できるまでにする加工や輸送などの仕事、木材を使用した土木建築、木造建築物を活用した施設や観光など、森林からさまざまにひろがっていくサイクルを回すことが地域振興につながっています。地域おこし協力隊の青年が町に残って起業したり、森林体験などに訪れる企業間のネットワークができたり、「森林づくりは、人づくり」そのものです。所有権の問題や獣害が少ないという点はこの地の貴重な利点かと思いますが、積極的に森林を中心とした町づくりを展開しておられる姿は勉強になりました。

GEN なんでも勉強会オンライン
日本の森林は荒廃しているのか？

～ 開 催 要 項 ～

林業は木材生産と環境保全などの公益的機能の発揮という二つの使命をもち、社会から資金的援助を受けています。しかし、実際の林業や森林は私たちにとって遠い存在で、現状や課題は十分に認識されていません。森林の現状を検証しながら、今後の森林の位置づけや林業支援、森林管理を考えます。

日時	2024 年 9 月 26 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	大住克博さん（大阪市立自然史博物館外来研究員）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	59 名

みなさんは、日本の森林が荒廃していると思いますか？　一般的には、人工林は手入れが行き届かずに荒れてしまって、土砂崩れなどの災害が起きているという印象ではないでしょうか。大住さんは、森林や林業に関する一般的な七つの認識をあげ、それが事実かどうかひとつずつ検証されました。すると、事実と異なる点がいくつも明らかになりました。たとえば、老齢林は炭素吸収機能が落ちると思われがちですが、百年を過ぎたようなスギ・ヒノキ林でも、成長し続け、炭素を吸収して材積を増やしていること。戦後の大規模造林のスギ・ヒノキは、まだ伐採の適期ではないということです。また、育成林業の歴史は浅く、経営・管理技術は確立されていないというのも意外でした。イメージや思い込みを排し、日本の人工林や林業の実情を知ることが、森林を理解する第一歩だと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン
日本の近代化と狩猟の歩み　乱獲と獣害の歴史から

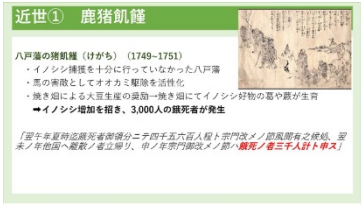
～ 開 催 要 項 ～

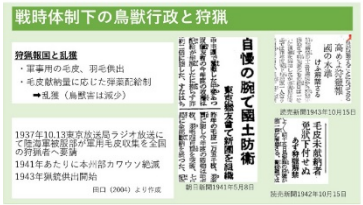
　深刻な農林業被害や人身事故を引き起こすシカやイノシシ、クマなど野生動物の急激な増加は、自然破壊がもたらした異常事態と考えられています。しかし、江戸時代にはイノシシやシカが飢饉や深刻な森林破壊を起こすほど多かったこともありました。
　明治時代以降の乱獲で減少した野生動物が再び増加して獣害を起こしている現代の狩猟のあり方を考えます。

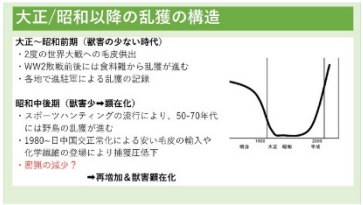
日時	2024 年 8 月 29 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	古賀達也さん（森林総合研究所研究員）
参加費	無料
定員	100 名

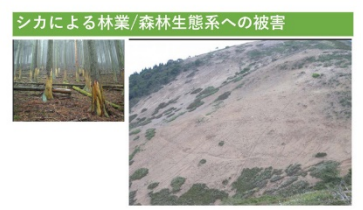
～ 開 催 記 録 ～

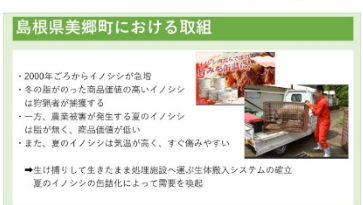
参加人数	50 名











　古文書によると、江戸時代にはいまと同じぐらいの数のイノシシやシカが生息していて、イノシシ飢饉やシカによる森林破壊がありました。それは狩猟が武士などごく一部にしか許されていなかったためで、幕末に支配が行き届かなくなると狩猟が一般層に広がります。輸出用毛皮の需要などもあって明治から昭和前期までは乱獲が続き、獣害も減少しましたが、この約 100 年間がむしろ特異でした。それ以降ハンターの減少やメスジカ狩猟解禁の遅れなどから野生動物が増加し、獣害も増えてきました。欧米では地主や政府が狩猟権や野生動物の個体数を管理しますが、日本ではそれがなされていません。現実的には人間社会の防衛のために捕獲圧を高めることが必要不可欠で、その方策を考えるには近世の村ぐるみの防御的狩猟システムがヒントになりそうです。

GEN なんでも勉強会オンライン
大阪・夢洲は生物多様性のホットスポット
夢洲の生きもの保全から大阪湾の生きもの保全・復元への流れを作っていこう

～ 開 催 要 項 ～

2025 大阪・関西万博会場の夢洲は廃棄物の埋立地ですが、絶滅危惧種の渡り鳥コアジサシが繁殖するなど南港野鳥園とあわせて生物多様性のホットスポットとなっています。

大阪自然環境保全協会の夢洲生きもの調査グループのメンバーに、これまでの保全の取り組みや大阪湾全体の自然保護についてお話しいただきます。

日時	2024 年 7 月 30 日（水）19 時～20 時 35 分
手段	Zoom
講師	垣井清澄さん（公益社団法人 大阪自然環境保全協会）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	42 名

大阪湾の埋め立ての歴史から話ははじまりました。生きものの住処である海岸線を埋め立ててできた埋立地や人工島に地盤沈下により水辺ができ、また新しく生きものたちが暮らす場所になる。砂礫地、草地、湿地、開水面、ヨシ原など、人工島の環境は意外と多様で、鳥類をはじめ様ざまな生きものを養い、南港野鳥園と夢洲が大阪府の生物多様性ホットスポット A ランクに指定されるほどです。何千キロを旅した渡り鳥が羽を休めた貴重な場所はすでに万博会場へと姿を変えてしまい、行き先をなくした鳥たちの一部は新しく埋め立てられている新島に移動しています。2025 年日本国際博覧会環境影響評価準備書に対し、夢洲の多様な鳥類、環境に配慮し、保全・創出することとした市長意見の趣旨を生かして、大阪湾全体の生きもの保全につないでいきたいものです。まずは、大阪自然環境保全協会のウェブサイトや写真展などで実態を知りましょう。

GEN 第 30 回総会記念講演
グローバル・ヒストリーのなかの黄土高原
大同・蔚県・五台山から世界を眺める

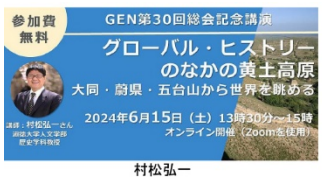
～ 開 催 要 項 ～

全地球史（グローバル・ヒストリー）のなかで黄土高原が果たした役割について、GEN の緑化協力地の大同と蔚県、そして五台山に注目します。大同では漢の劉邦が遊牧民の匈奴に敗れた白登山、日本の平城京の都市プランに影響を与えた北魏の都の平城（現在の大同）。蔚県では戦国時代の代の馬、宋代の燕雲十六州。そして五台山は日本の僧、円仁が訪れ、「入唐求法巡礼行記」を遺しました。黄土高原で生きた人々がつくりあげた文明・文化は世界をどう変えたのか、そして気候変動は黄土高原をどう変えたのか、大胆に考えてみます。

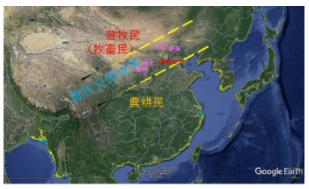
日時	2024 年 6 月 15 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分ごろ
場所	大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）／Zoom
講師	村松弘一さん（淑徳大学人文学部教授、GEN 世話人）
参加費	500 円。GEN 会員、オンライン参加は無料
定員	100 名

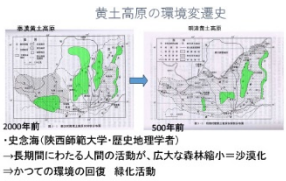
～ 開 催 記 録 ～

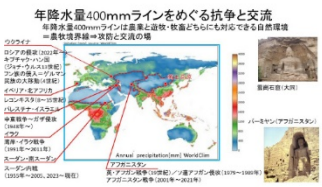
参加人数	50 名

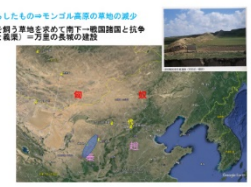


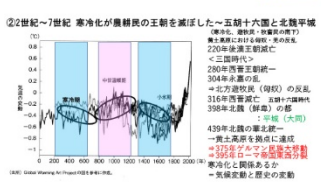
村松弘一











農耕可能地と草原をわける年間降水量 400mm ライン。これが農耕民と遊牧民をわける境界となり、気候変動でこのラインが動くことによって世界史を動かすさまざまなイベントが起きたのではないかと考えるのが、国や王朝ごとに誰がいつ何をしたかという従来の歴史ではなく、国境にしばられないダイナミックなグローバル・ヒストリー（全地球史）です。GEN の協力地大同や蔚県もそのライン上にあり、人々が行き交い、街を築き、争ってきました。降水量に加えて気温変動も考慮に入れるとより鮮明にいろいろなことが見えてきます。知的好奇心を大いにそそられたお話でした。

GEN 顧問　遠田宏先生を偲ぶ会

～ 開 催 要 項 ～

GEN 顧問の遠田宏先生が逝去されました。91 歳でした。一周忌にあたる 5 月 29 日、遠田先生との思い出を語る場としてオンラインでの偲ぶ会を開催します。

日時	2024 年 5 月 29 日（水）19 時～20 時 30 分ごろ
手段	Zoom
参加費	無料

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	15 名

有機質の不足する大同で泥炭は育苗などに役立つ。1997年6月、大同県。

小川房人先生、立花吉茂先生と。雲丘県、1999年7月。

雲丘県ではしばしば植生調査を行った。1999年7月。

枯れ死したマツをめぐって小川眞先生と検討。1997年4月、南郊区。

土壌の調査。右端はカメラマンの橋本龍二さん。1997年7月、南郊区。

地元の技術者と松苗の根の状態を検討。1999年8月。

1994 年の夏に、東北大学理学部附属植物園長だった遠田先生は初めて GEN の専門家調査団に加わって大同を訪ねてくださいました。それから 2010 年まで、34 度にわたり、長期間の滞在もまじえながら、さまざまなアドバイスやツアー参加者の指導などいただいてたいへんお世話になりました。

偲ぶ会では参加者がそれぞれに遠田先生との思い出を語り、お話を聞きながらそんなこともあった、あんなこともあったと懐かしく思い出しました。研究者としての一面や、教員としての一面、また、植物だけでなく地学、さらに中国の歴史や社会に関して、こんな話をうかがったという思い出など、それぞれの方の遠田先生の思い出話が次々と語られ、みんなで遠田先生を偲ぶことができました。遠田先生の GEN への貢献に心から感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

GEN なんでも勉強会オンライン
森づくりってなんだ？　スイスの森林管理から考える

～ 開 催 要 項 ～

森づくりとはなにか? と聞かれて、あなたはどう答えるでしょうか。木を植えること? 手入れをすること? …間違いではありませんが、それだけではありません。

スイスなどの中欧諸国では、度重なる自然災害や生物多様性の劣化、木材価格の低迷などを契機に、さまざまな樹種・樹齢が混在する自然に近い森づくりがおこなわれています。環境と経済の両立を目指す森林経営の考え方、「近自然森づくり」を日本で広めるべく活動しておられる佐藤浩行さんといっしょに、森づくりについて考えます。

日時	2024 年 5 月 23 日（木）19 時～20 時 30 分ごろ
手段	Zoom
講師	佐藤浩行さん（特定非営利活動法人 近自然森づくり協会 理事）
参加費	無料
定員	200 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	85 名

森づくりにも、その国の歴史や人びとの暮らしが反映されます。ヨーロッパの大国に囲まれた、面積も人口も小さな内陸の山岳国スイスがしたたかに生き延びてきた知恵が、スイスの森づくりに生かされているというところから、お話は始まりました。今回のテーマ「森づくり」は、「人が利用しやすいように森の構造に手を加えること」です。「生産」「防災」「生物多様性」「レクリエーション」など目的を念頭に方法を選ぶことが大切ですが、具体的な方法より、それを支える考え方が非常に興味深く、特に「環境か経済か」の対立ではなく、「環境も経済も」の両立であるからこそ持続するという考え方は目からうろこでした。

GEN なんでも勉強会オンライン
中尾式栽培植物ルーツ探し術

～ 開 催 要 項 ～

照葉樹林文化論の提唱で知られる中尾佐助さんのもとで学ばれた山口聰さん。これまで花卉遺伝資源探索やチャの海外遺伝資源探索をネパール、ベトナム、中国など世界各地でおこなうなど、幅広い研究活動をおこなってこられました。

山口さんの調査研究の基となっている中尾佐助式民族植物探検とはどのようなものなのか？海外調査の苦労話も交えながらお話しいただきます。

日時	2024 年 4 月 25 日（木）19 時～20 時 30 分ごろ
手段	Zoom
講師	山口聰さん（花卉育種専門家）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	33 名

植物の遺伝資源探索や育種に豊富な経験をお持ちの山口さん。ネパールやベトナムなど海外調査の際は、中尾佐助さんに学んだことがおおいに役立ったそうです。優れたラポート（協力者）を見つけることの重要性、基本的には人はみな同じという認識。立場の上下なく、よいカウンターパートが大切なのは国際協力でも同じです。各国での調査や育種のお話は、あらためてそれぞれに詳しくうかがいたいほどでした。また、チャの産地別のめしべの形や遺伝子解析データの比較によって、日本茶の産地ごとに中国からの導入時期や経路が推測できるのも謎解きのようで興味深かったです。

GEN 自然と親しむ会
前中代表と歩く野の道シリーズ(18)　春の大仙公園を歩く

～ 開 催 要 項 ～

GEN は足元の自然と親しみ、身の回りの環境を考える自然と親しむ会を開催しています。前中代表と歩く野の道シリーズは、GEN 代表の前中久行さんの案内で、植物を中心とした自然観察を楽しむ会です。

今回は堺市にある大仙公園を訪れます。大仙公園は、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳のあいだに広がる緑と歴史に囲まれた公園です。

４月の大仙公園を歩いて、春の自然観察を楽しみませんか。園内にある日本庭園も訪ねます。

日時	2024 年 4 月 13 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	大仙公園（堺市堺区）
集合／解散	10 時に JR 阪和線「百舌鳥」駅西改札／南海・大阪メトロ「中百舌鳥」駅
案内	前中久行さん（GEN 代表）
参加費	700 円（保険料含む）。日本庭園の入園料 200 円が別途必要
持ちもの	歩きやすい靴と服装、弁当、飲みもの、敷物
定員	20 名（先着順）

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	21 名

①撮影：吉房睦美さん
②撮影：藤田修二さん

昨年度 2 回計画して天候等により中止になった大仙公園、ようやく実現しました。当日は暑いほどの好天で行楽日和。驚いたのは大仙公園周辺が古墳だらけなことでした。仁徳天皇陵のような大物から、住宅街にひっそりとある小さな古墳まで、犬も歩けば古墳にあたる。昭和 30 年代後半の宅地開発でなくなってしまった古墳もあったそうです。

大仙公園では、満開のしだれ桜に間に合い、さまざまな新緑の美しさに感嘆し、池泉回遊式の日本庭園では咲き始めた牡丹を鑑賞したり、ウェディングフォトを撮影するカップルに出会ったりしました。古墳の濠で水鳥にも出会えた楽しい一日でした。